

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	体育Ⅲ					学年	3
講師名	高橋 幸	時間数	60	単位数	2	コマ数	30

教科目標 体力を增強し、健全な身体発達を図れる。 消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。 就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。							
講 義 内 容	1	説明(資機材・施設・準備体操・トレーニング方法等)					
	2	ランニング					
	3	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)					
	4	マシンによる筋力トレーニング					
	5	小隊対抗リレー					
	6	ストレッチ					
	7	ダッシュ連続による体力練成					
	8	ランニング					
	9	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)					
	10	マシンによる筋力トレーニング					
	11	小隊対抗リレー					
	12	ストレッチ					
	13	ダッシュ連続による体力練成					
	14	ランニング					
	15	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)					
	16	マシンによる筋力トレーニング					
	17	小隊対抗リレー					
	18	ストレッチ					
	19	ダッシュ連続による体力練成					
	20	ランニング					
	21	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)					
	22	マシンによる筋力トレーニング					
	23	小隊対抗リレー					
	24	ストレッチ					
	25	ダッシュ連続による体力練成					
	26	ランニング					
	27	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)					
	28	マシンによる筋力トレーニング					
	29	小隊対抗リレー					
	30	ストレッチ					

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		アリーナ及びインドアスタジアムを使用しトレーニングを行う		
備考				

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	シミュレーション実習Ⅲ					学年	3
講師名	専任教員	時間数	360	単位数	8	コマ数	180

教科目標

実技試験・筆記試験にむけた、個人・チームでの取り組みをとおし、救急隊員、救急救命士としての活動、手技、知識、学力を身につける。また同時に、チーム協同で問題解決を目指すことの大切さを学ぶ。

講 義 内 容	1～10	JPTEC
	11～30	PEMEC
	31～40	応急手当指導要領
	41～43	分娩介助、新生児の処置
	44～60	心肺停止前の輸液
	61～70	血糖測定、ブドウ糖投与
	71～90	特定行為の総合
	91～120	心肺停止症例の現場活動
	121～150	内因性症例の現場活動
	151～180	外因性症例の現場活動

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	一般外傷					学年	3
講師名	専任教員、中田敏宏、	時間数	45	単位数	3	コマ数	23

教科目標

外傷一般の病態生理、主な外傷、現場活動の理解。
さらに大規模災害や病院前救護を含めた救急医療体制全般を復習する。

講 義 内 容	1	救急医療体制(病院前救護、救急医療システム)
	2	多数傷病者対応 トリアージ 大規模災害 特殊災害
	3	感染防御 救急資器材・救急車内の洗浄や消毒 感染事故とその対応
	4	外傷の疫学 受傷機転とエネルギー 外傷の分類
	5	主な受傷形態
	6	外傷の病態生理
	7	外傷の現場活動 JPTEC(目的、歴史も含める)
	8	頭部外傷(特徴)
	9	頭部外傷(主な頭部外傷)
	10	顔面・頸部外傷
	11	脊椎・脊髄外傷
	12	胸部外傷(特徴、主な外傷1)
	13	胸部外傷(主な外傷2、現場活動)
	14	腹部外傷(特徴、主な外傷1)
	15	腹部外傷(主な外傷2、現場活動)
	16	骨盤・四肢外傷
	17	皮膚・軟部組織外傷(分類、現場活動)
	18	皮膚・軟部組織外傷(クラッシュ症候群、コンパートメント症候群など)
	19	小児・高齢者・妊婦の外傷
	20	熱傷 化学損傷 電撃症
	21	縊頸 絞頸
	22	刺咬傷
	23	試験対策(まとめ)

評価方法		終講試験など		
評価基準	新GPA 新評価A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	一般知能・一般知識Ⅲ					学年	3
講師名	大室 英幸、田村 和香子	時間数	45	単位数	3	コマ数	23

教科目標

将来の就職試験でも必要となる一般知能・一般知識の基礎知識を学ぶ。

講 義 内 容	1～3	社会科学 政治(国会・内閣・人権など)経済(市場経済・金融と財政など)
	4～7	人文科学 日本史・世界史・地理・文学・芸術など
	8～10	判断推理 集合・論理・位置関係など
	11～14	数的推理 方程式・不等式・整数・図形など
	15～18	文章理解・資料解釈 現代文・古文・英文・数表・グラフなど
	19～21	適性試験 適性・作文など
容	22～23	自然科学 物理・化学・生物・地学など

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	オープンセサミを使用する 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名		社会保障・社会福祉				学年	3
講師名		時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標							
社会保障の仕組みと費用について説明できる。							
医療保険・介護保険・年金制度・生活保護について説明できる。							
障害者の福祉、虐待(児童虐待、高齢者虐待、配偶者からの暴力)について説明できる。							
講 義 内 容	1	社会保障、社会福祉の理念					
	2	社会保障、社会福祉を担当する行政組織					
	3	関連施設、社会保障の費用					
	4	社会保障制度の理念					
	5	医療保険制度、介護保険制度、年金制度					
	6	生活保護、児童福祉					
	7	高齢者福祉、母子および寡婦福祉					
	8	障害者福祉					

評価方法		終講試験など					
評 価 基 準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する						

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	法医学					学年	3
講師名		時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

法医学の知識、異常死体の検案・解剖、死体の尊厳、適切な法的処置を理解する。

※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	法医学の役割
	2	死亡診断書
	3	死体現象のみかた
	4	自為か他為か、死因の決定
	5	日常生活に密着した外因死と内因死
	6	中毒
	7	個人識別、親子識別
	8	医師と法律、最近注目されている医療行為

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名		放射線医学				学年	3
講師名		時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標							
放射線、放射能および放射性元素の説明。透過力、被爆、影響、急性・晩発障害の説明ができる。							
確定的・確率的影響、外部・内部被爆の防護、線量を測定する機器、救急資器材の説明ができる。							
事故における区域管理、除染、緊急被爆医療体制、情報提供・情報収集の要点を説明できる。							
講義内容	1	放射線の概要					
	2	人体への影響					
	3	過去の放射線災害					
	4	放射線への対応					
	5	傷病者の評価・処置					
	6	緊急度・重症度の判断と医療機関選定					
	7	医療機関への情報提供					
	8	放射線管理、及び、まとめ					
評価方法		終講試験など					
評価基準	新GPA（評価）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する						

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	微生物学					学年	3
講師名	三瓶 泰子	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

炎症と感染の説明、炎症の定義・原因、感染症の原因と感染経路が説明できる。

感染経路別の感染予防法、標準予防策、消毒、事故後の対応、法律指定の対応を説明できる。

予防接種、感染症の一般的症候、感染症の疫学・症候・特徴的疾患・予後について説明できる。

※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	炎症
	2	感染症
	3	感染予防と感染防御
	4	救急活動での感染防御
	5	洗浄と消毒
	6	感染事故と事故後の対応
	7	感染症総論
	8	その他の感染症

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	病理学					学年	3	
講師名	三戸 浩平		時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標								
疾病の病院病理学像などの基礎的内容を理解する。								
講 義 内 容	1	成長と発達、老化、疾病の成り立ち						
	2	炎症と感染 循環障害						
	3	代謝障害						
	4	組織の退行性変化 進行性変化						
	5	腫瘍 先天異常						
	6	損傷						
	7	死						
	8	まとめ						

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 A （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	法学					学年	3
講師名		時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標							
現代法を中心に、基本権の構造及び市民生活にかかわる法律的諸問題を理解する。							
講 義 内 容	1	法とは何か？（憲法・法律・条令・政令）					
	2	憲法における基本的人権					
	3	幸福追求権・自己決定権					
	4	職業選択の自由					
	5	消防・救急活動と法①（消防に関わる主要法令，消防関係機関）					
	6	消防・救急活動と法②（消防・救急活動の法律上の位置づけおよび根拠）					
	7	消防・救急活動と法③（消防に関わる犯罪）					
	8	消防・救急活動と法③（消防に関わる犯罪）の続き					

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	顔面外傷					学年	3
講師名	境 純平	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

顔面の解剖生理、外傷の特徴、救急処置法などを中心に学ぶ。

※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	顔面の解剖生理。
	2	顔面損傷、吹き抜け骨折。
	3	頸部損傷、軟部組織損傷。
	4	口腔内・気道損傷。
	5	症状と処置。
	6	判断と処置、搬送。
	7	気道異物。
	8	消化管異物。

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞③

[illegible]

評価方法		終講試験など	
評価基準	新G 評P 価A ()	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞③

[illegible]

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 実習要領に基づき実習を行い、 各施設の指示に従い実習を実施する			

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	高齢者疾患					学年	3		
講師名	中田 敏宏			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標									
高齢者疾患の特殊性、救急処置法などを中心に学ぶ。									
講 義 内 容	1	高齢者の特徴、加齢による変化。							
	2	予備能力、修復力の低下。							
	3	観察・問診のポイント。							
	4	高齢者によくみられる救急疾患。							
	5	脳血管障害、認知症。							
	6	虚血性心疾患、肺気腫、COPD。							
	7	誤嚥性肺炎、骨粗しょう症。							
	8	動脈閉塞性疾患、前立腺肥大、その他。							

評価方法	終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	産婦人科・周産期疾患					学年	3	
講師名	三瓶 泰子		時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標								
産婦人科疾患、周産期疾患の特殊性と救急処置等を中心に学ぶ。								
講 義 内 容	1	妊娠に関連した疾患の特徴。						
	2	正常分娩の機序。						
	3	分娩の取り扱いと母体搬送。						
	4	観察・問診のポイント。						
	5	流産、子宮外妊娠。						
	6	妊娠中毒症、前置胎盤。						
	7	常位胎盤早期剥離、子宮破裂。						
	8	弛緩出血、羊水塞栓。						

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名		骨盤四肢外傷					学年	3
講師名		専任教員	時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標								
運動器の解剖生理、骨盤四肢の外傷、主な疾患を学ぶ。								
講義内容	1	疾患の理解に必要な解剖・生理。						
	2	筋・骨格系疾患にみられる症状の特徴。						
	3	脊椎疾患・外傷。						
	4	関節炎、横紋筋融解症。						
	5	骨折の形態。						
	6	骨折の出血量・重症度・処置。						
	7	骨盤骨折の症状・病態と観察。						
	8	骨盤骨折時の対応。						
評価方法		終講試験など						
評価基準	新GPA	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する							

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	処置論Ⅱ					学年	3
講師名	工藤 朝生	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

平成26年4月に救急救命処置に追加された「心肺停止前の静脈路確保と輸液、血糖測定とブドウ糖投与」の理論を学ぶとともに、今後予想される課題を含めた対応についての実践的な知識を検討する。

※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	意識障害の鑑別(1)
	2	意識障害の鑑別(2)
	3	意識障害の鑑別(3)
	4	ブドウ糖投与
	5	血糖測定とブドウ糖投与のプロトコール
	6	薬剤投与プロトコール
	7	静脈路確保の実際
	8	拡大処置の実際と今後の課題

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	小児・新生児疾患					学年	3
講師名		時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標							
小児、新生児の、解剖生理的特長、特有疾患等の理解							
講 義 内 容	1	小児期の発育発達 新生児疾患 新生児救急搬送					
	2	けいれん性疾患 髄膜炎 脳炎・脳症					
	3	呼吸器疾患					
	4	腹部疾患(主に急性腹症をきたす疾患)					
	5	腎疾患 腸炎 溶血性尿毒症症候群 乳児ボツリヌス症					
	6	川崎病 感染症					
	7	乳幼児突然死症候群 被虐待児症候群 小児の外傷					
	8	小児救急医療 新生児搬送 先天異常 不慮の事故 小児がん					

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名	精神障害					学年	3
講師名	三瓶 泰子	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

精神障害の特殊性の救急搬送時の留意点などを中心に学ぶ。
※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	精神障害・精神病の定義。
	2	内因性・外因性精神障害。
	3	心因性精神障害、精神症状。
	4	救急活動、搬送の原則。
	5	自殺企図、昏迷・混迷・興奮への対応。
	6	病院選定と入院形式。
	7	悪性症候群、統合失調症。
	8	躁鬱病、心因反応、その他の精神障害。

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞③

科目名		熱傷・電撃傷					学年	3
講師名		池田 淳也	時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標								
熱傷・電撃傷の病態生理と救急処置法を中心に学ぶ。 <u>※実務経験のある教員等による授業科目となる</u>								
講 義 内 容	1	皮膚組織の構造。						
	2	熱傷の種類。						
	3	重症度分類、簡易識別法。						
	4	熱傷面積の算定。						
	5	気道熱傷と一酸化炭素中毒。						
	6	救急処置、冷却、その他。						
	7	電撃、アーク放電、火焰、雷撃。						
	8	搬送時の留意点。まとめ。						
評価方法		終講試験など						
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する							